



仮想スイッチの管理

この章では、次の内容について説明します。

- 「仮想スイッチの概要」(P.4-1)
- 「仮想スイッチのライセンス要件」(P.4-3)
- 「前提条件」(P.4-4)
- 「プラットフォーム サポート」(P.4-4)
- 「ドメインの設定」(P.4-4)
- 「サーバ接続の設定」(P.4-9)
- 「ネイバー デバイスの表示」(P.4-12)
- 「制御インターフェイスの設定」(P.4-13)
- 「仮想スイッチのモニタリング」(P.4-13)
- 「フィールドの説明」(P.4-14)
- 「その他の関連資料」(P.4-16)
- 「仮想スイッチ機能の履歴」(P.4-16)

仮想スイッチの概要

Cisco Nexus 1000V は VMware vSphere 4.0 と連携する仮想アクセス ソフトウェア スイッチで、次のコンポーネントで構成されます。

- Virtual Supervisor Module (VSM) : スイッチのコントロール プレーンで、Cisco NX-OS システムを実行する仮想マシン。
- Virtual Ethernet Module (VEM) : 各 VMware vSphere (ESX) ホストに埋め込まれた仮想ラインカード。

仮想スイッチの管理には、ドメインやサーバ接続の設定などがあります。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ドメイン」(P.4-2)
- 「サーバ接続」(P.4-3)

ドメイン

ドメインは、VMware vCenter サーバ内にデュアル冗長 Virtual Supervisor Module (VSM) および管理対象の Virtual Ethernet Module (VEM) を含む Cisco Nexus 1000V デバイスのインスタンスです。各ドメインは、ドメイン ID と呼ばれる一意の整数で識別する必要があります。

VSM と VEM 間の通信には、レイヤ 2 またはレイヤ 3 の転送制御モードを設定できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「レイヤ 2 制御」(P.4-2)
- 「レイヤ 3 制御」(P.4-2)

レイヤ 2 制御

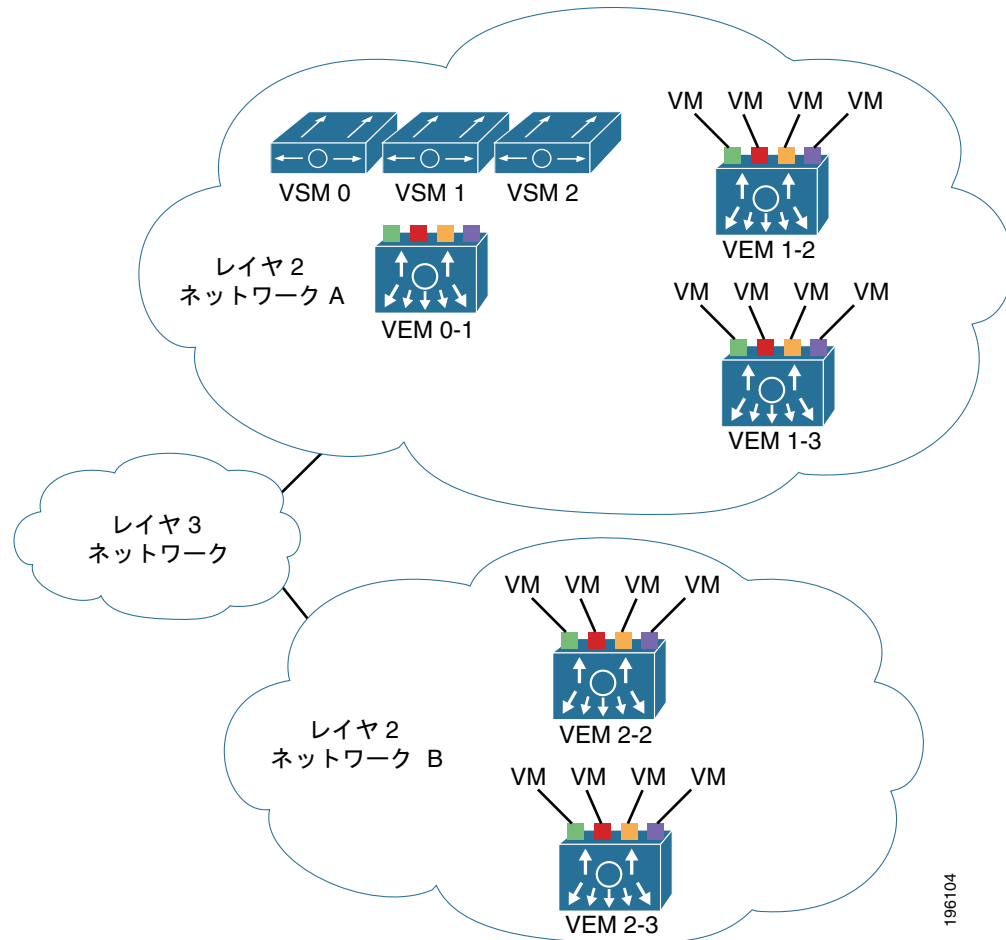
レイヤ 2 は、VSM と VEM 間の通信に使用される転送制御モードです。ただし、作成および指定できるのは、使用する VLAN です。

レイヤ 3 制御

レイヤ 3 制御、つまり IP 接続は、制御トラフィックおよびパケットトラフィック用の VSM と VEM 間でサポートされています。レイヤ 3 制御を使用すると、VSM はレイヤ 3 でアクセス可能で、制御ホストを個別のレイヤ 2 ネットワークに保管できます。ただし、VSM によって制御されるすべてのホストを同じレイヤ 2 ネットワークに引き続き保管する必要があります。VSM は、制御対象のレイヤ 2 ネットワークの外部にあるホストを制御できないため、保管されたホストは別の VSM によって制御される必要があります。

図 4-1 に、VSM0 が VEM_0_1 を制御し、次に VEM_0_1 が VSM1 および VSM2 をホスティングし、VSM1 および VSM2 が他のレイヤ 2 ネットワークの VEM を制御するレイヤ 3 制御の例を示します。

図 4-1 レイヤ 3 制御 IP 接続の例



196104

サーバ接続

Nexus 1000V デバイスには、Distributed Virtual Switch (DVS; 分散仮想スイッチ) および Virtual Ethernet Module (VEM) へのホスト マッピングを管理するための VMware vCenter サーバへの接続が必要です。

仮想スイッチのライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
Cisco DCNM	仮想スイッチ機能にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能は Cisco DCNM にバンドルされており、無料で提供されます。Cisco DCNM LAN エンタープライズ ライセンスの取得およびインストールについては、『 <i>Cisco DCNM Installation and Licensing Guide, Release 5.x</i> 』を参照してください。
Cisco NX-OS	仮想スイッチ機能にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。使用するプラットフォームの Cisco NX-OS ライセンス方式の詳細については、プラットフォームごとのライセンス ガイドを参照してください。

前提条件

Cisco DCNM で仮想スイッチ機能を使用するには、次の前提条件が必要です。機能固有の前提条件の詳細については、プラットフォームごとのマニュアルを参照してください。

- 仮想スイッチ機能のシステム メッセージ ログレベルは、Cisco DCNM 要件を満たすか上回る必要があります。デバイスのディスクバリ中、Cisco DCNM は不適切なログレベルを検出し、そのレベルを最小要件まで引き上げます。Cisco NX-OS Release 4.0 を実行する Cisco Nexus 7000 シリーズのスイッチは例外です。Cisco NX-OS Release 4.0 は、デバイスのディスクバリ前にコマンドライン インターフェイスを使用して、Cisco DCNM の要件を満たすか、その要件を上回るようにログレベルを設定します。詳細については、『*Cisco DCNM Fundamentals Configuration Guide, Release 5.x*』を参照してください。

プラットフォーム サポート

次のプラットフォームが、この機能をサポートしています。注意事項や制約事項、システムのデフォルト、コンフィギュレーションの制限などに関するプラットフォーム固有の情報については、対応するマニュアルを参照してください。

プラットフォーム	マニュアル
Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチ	Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチのマニュアル

ドメインの設定

Cisco DCNM ではドメインを設定できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「レイヤ 2 制御によるドメインの作成」(P.4-5)
- 「レイヤ 3 制御によるドメインの作成」(P.4-6)
- 「ドメインのレイヤ 3 制御への変更」(P.4-6)
- 「ドメインのレイヤ 2 制御への変更」(P.4-7)
- 「コントロール VLAN によるドメインの設定」(P.4-8)
- 「パケット VLAN によるドメインの設定」(P.4-8)

レイヤ 2 制御によるドメインの作成

Virtual Supervisor Module (VSM) および Virtual Ethernet Module (VEM) を識別し、通信および管理のためのコントロール VLAN およびパケット VLAN を追加する Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチ のドメイン名を作成できます。このプロセスは、初期インストールプロセスの一部です。初期セットアップ後にドメインを作成する必要がある場合は、この手順を使用して実行できます。

作業を開始する前に

- 複数の VSM が同じコントロール VLAN およびパケット VLAN、またはそのいずれかを共有している場合、ドメインは各 VSM が管理している VEM の識別に役立ちます。
- このインスタンスには、一意のドメイン ID を指定する必要があります。
- 制御トラフィックに 1 つの VLAN を使用し、パケット トラフィックに異なる VLAN を使用することを推奨します。
- ドメインごとに個別の VLAN を使用することを推奨します。
- 2 番目の VSM を追加した後のドメイン ID の変更については、使用するプラットフォームのマニュアルを参照してください。

手順の詳細

-
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
- ステップ 2** [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。
- ステップ 3** [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
- ステップ 4** [Domain Settings] セクションを拡張します。
- ステップ 5** (任意) メニュー バーから、[Actions] > [Reset Domain Setting(s)] を選択します。
- ステップ 6** [Domain ID] フィールドに、ドメインの ID 番号を入力します。
- ステップ 7** 制御モードのドロップダウンリストで、[L2] を選択します。
- レイヤ 2 制御はデフォルトで、コントロール VLAN およびパケット VLAN に VLAN 1 を使用します。必要に応じて、特定のコントロール VLAN およびパケット VLAN をドメインに設定できます。この設定を実行するには、「[コントロール VLAN によるドメインの設定](#)」(P.4-8) および「[パケット VLAN によるドメインの設定](#)」(P.4-8) を参照します。
- ステップ 8** メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
-

レイヤ 3 制御によるドメインの作成

Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチの Virtual Supervisor Module (VSM) および Virtual Ethernet Module (VEM) を識別するドメイン名を作成できます。この処理は、ソフトウェアをインストールする際の初期セットアップの一部です。初期セットアップ後にドメインを作成する必要がある場合は、この手順を使用して実行できます。

作業を開始する前に

- IP アドレスで使用する予定のインターフェイス (mgmt 0 または control 0) を設定します。詳細については、「[制御インターフェイスの設定](#)」(P.4-13) を参照してください。
- レイヤ 3 制御のポート プロファイルを設定します。『Cisco DCNM Interfaces Configuration Guide, Release 5.x』を参照してください。
- 各ホストに VMware kernel NIC インターフェイスを作成し、そのインターフェイスにレイヤ 3 制御ポート プロファイルを適用します。詳細については、VMware のマニュアルを参照してください。
- このインスタンスに一意のドメイン ID が指定されていることを確認します。
- 2 番目の VSM を追加した後のドメイン ID の変更については、使用するプラットフォームのマニュアルを参照してください。

手順の詳細

-
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
- ステップ 2** [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。
- ステップ 3** [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
- ステップ 4** [Domain Settings] セクションを拡張します。
- ステップ 5** (任意) メニュー バーから、[Actions] > [Reset Domain Setting(s)] を選択します。
- ステップ 6** [Domain ID] フィールドに、ドメインの ID 番号を入力します。
- ステップ 7** 制御インターフェイスのドロップダウン リストで、使用するインターフェイスとして [mgmt0] または [control0] のいずれかを選択します。
- ステップ 8** メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
-

ドメインのレイヤ 3 制御への変更

Virtual Supervisor Module (VSM) ドメインの制御トラフィックおよびパケット トラフィックの制御モードをレイヤ 2 からレイヤ 3 に変更できます。

作業を開始する前に

IP アドレスで使用する予定のインターフェイス (mgmt 0 または control 0) を設定します。詳細については、「[制御インターフェイスの設定](#)」(P.4-13) を参照してください。



(注) この作業の各手順を順番に実行する必要があります。レイヤ 3 制御をイネーブルにする前に、コントロール VLAN およびパケット VLAN をディセーブルにする必要があります。

手順の詳細

-
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
 - ステップ 2** [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。
 - ステップ 3** [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
 - ステップ 4** [Domain Settings] セクションを拡張します。
 - ステップ 5** [Control VLAN] フィールドで、コントロール VLAN として使用する VLAN の番号を削除します。
 - ステップ 6** [Packet VLAN] フィールドで、パケット VLAN として使用する VLAN の番号を削除します。
 - ステップ 7** メニューバーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
 - ステップ 8** 制御モードのドロップダウンリストで、[L3] を選択します。
 - ステップ 9** 制御インターフェイスのドロップダウンリストで、使用するインターフェイスとして [mgmt0] または [control0] のいずれかを選択します。
 - ステップ 10** メニューバーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
-

ドメインのレイヤ 2 制御への変更

VSM ドメインの制御トラフィックおよびパケット トラフィックの制御モードをレイヤ 3 からレイヤ 2 に変更できます。

作業を開始する前に

コントロール VLAN およびパケット VLAN として使用する VLAN を作成します。詳細については、『Cisco DCNM Layer 2 Switching Configuration Guide, Release 5.x』を参照してください。



(注) この作業の各手順を順番に実行する必要があります。コントロール VLAN およびパケット VLAN を割り当てる前に、レイヤ 3 制御をディセーブルにする必要があります。

手順の詳細

-
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
 - ステップ 2** [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。
 - ステップ 3** [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
 - ステップ 4** [Domain Settings] セクションを拡張します。
 - ステップ 5** 制御モードのドロップダウンリストで、[L2] を選択します。

- ステップ 6 [Control VLAN] フィールドで、コントロール VLAN として使用する VLAN の番号を入力します。
- ステップ 7 [Packet VLAN] フィールドで、パケット VLAN として使用する VLAN の番号を入力します。
- ステップ 8 メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。

コントロール VLAN によるドメインの設定

コントロール VLAN によりドメインを制御できます。

作業を開始する前に

- コントロール VLAN として使用する VLAN を作成します。詳細については、『Cisco DCNM Layer 2 Switching Configuration Guide, Release 5.x』を参照してください。
- ご使用の Virtual Supervisor Module (VSM) でレイヤ 3 制御が設定されている場合、コントロール VLAN によりドメインを設定できません。まずレイヤ 3 制御をディセーブルにする必要があります。
- 『Cisco Nexus 1000V Interface Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(2)』を使用して、必要な VLAN インターフェイスを設定してイネーブルにします。VLAN インターフェイスは、複数の VLAN 間の通信を可能にします。
- VLAN への番号の割り当て方法の概要 詳細については、『Cisco DCNM Layer 2 Switching Configuration Guide, Release 5.x』を参照してください。
- 新規に作成した VLAN は、レイヤ 2 ポートが割り当てられるまでは未使用の状態になります。

手順の詳細

- ステップ 1 [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
- ステップ 2 [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。
- ステップ 3 [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
- ステップ 4 [Domain Settings] セクションを拡張します。
- ステップ 5 制御モードのドロップダウン リストで、[Layer 2] を選択します。
- ステップ 6 [Control VLAN] フィールドで、コントロール VLAN として使用する VLAN の番号を入力します。
- ステップ 7 メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。

パケット VLAN によるドメインの設定

パケット VLAN によりドメインを設定できます。

作業を開始する前に

- パケット VLAN として使用する VLAN を作成します。詳細については、使用するプラットフォームのマニュアルを参照してください。

- 『Cisco Nexus 1000V Interface Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(2)』を使用して、必要な VLAN インターフェイスを設定してイネーブルにします。VLAN インターフェイスは、複数の VLAN 間の通信を可能にします。
- VLAN への番号の割り当て方法の概要 詳細については、『Cisco DCNM Layer 2 Switching Configuration Guide, Release 5.x』を参照してください。
- 新規に作成した VLAN は、レイヤ 2 ポートが割り当てられるまでは未使用の状態になります。

手順の詳細

-
- | | |
|---------------|---|
| ステップ 1 | [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。 |
| ステップ 2 | [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。 |
| ステップ 3 | [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。 |
| ステップ 4 | [Domain Settings] セクションを拡張します。 |
| ステップ 5 | 制御モードのドロップダウン リストで、[L2] を選択します。 |
| ステップ 6 | [Packet VLAN] フィールドで、パケット VLAN として使用する VLAN の番号を入力します。 |
| ステップ 7 | メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。 |
-

サーバ接続の設定

Cisco DCNM を使用してサーバ接続を管理できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「vCenter Server 接続の設定」(P.4-9)
- 「vCenter Server 接続の削除」(P.4-10)
- 「vCenter Server への接続」(P.4-11)
- 「vCenter Server からの切断」(P.4-11)
- 「vCenter Server からの DVS の削除」(P.4-11)
- 「モジュールからのホスト マッピングの削除」(P.4-12)

vCenter Server 接続の設定

Cisco Nexus 1000V を vCenter Server に接続するためのパラメータを設定できます。

作業を開始する前に

- 次の情報を用意します。
 - データセンター名
 - vCenter サーバ IP アドレスまたはホスト名
- vCenter Server 管理ステーションがインストールされて実行されていることを確認します。

- ESX サーバがインストールして実行されていることを確認します。
- 管理ポートが設定されていることを確認します。
- vCenter Server が到達可能であることを確認します。
- アプライアンスがインストールされていることを確認します。
- ホスト名を使用して接続を設定している場合は、DNS がすでに設定されていることを確認します。
- vCenter Server に拡張がすでに登録されていることを確認します。この拡張には、Virtual Supervisor Module (VSM) 用の拡張キーおよび公開証明書が含まれます。vCenter Server は、このキーおよび証明書を使用して VSM から受信される要求の信憑性を確認します。拡張の追加および登録の手順については、使用するプラットフォームのマニュアルを参照してください。

手順の詳細

-
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
- ステップ 2** [Summary] ペインから、vCenter Server 接続を設定するデバイスを選択します。
- ステップ 3** [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
- ステップ 4** [Connection Settings] セクションを拡張します。
- ステップ 5** [Connection Name] フィールドに接続の名前を入力します。
- ステップ 6** [Server Name/IP Address] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 7** [Data Center Name] フィールドに、分散仮想スイッチ (DVS) として が作成される vCenter Server のデータセンター名を入力します。データセンター名は、にローカルに格納されます。
- ステップ 8** プロトコル ドロップダウン リストで、[VMWARE-VIM] を選択します。
- ステップ 9** メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
-

vCenter Server 接続の削除

設定した vCenter Server 接続パラメータを削除できます。

たとえば、vCenter Server 設定の修正後に vCenter Server から切断できます。

手順の詳細

-
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
- ステップ 2** [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。
- ステップ 3** メニュー バーから、[Actions] > [Delete Connection] を選択します。
- ステップ 4** メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
-

vCenter Server への接続

vCenter Server または ESX Server に接続できます。

作業を開始する前に

vCenter Server 接続を作成します。

詳細手順

-
- | | |
|---------------|---|
| ステップ 1 | [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。 |
| ステップ 2 | [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。 |
| ステップ 3 | メニュー バーから、[Actions] > [Connect to vCenter] を選択します。 |
-

vCenter Server からの切断

たとえば、vCenter Server 設定の修正後に vCenter Server から切断できます。

手順の詳細

-
- | | |
|---------------|---|
| ステップ 1 | [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。 |
| ステップ 2 | [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。 |
| ステップ 3 | メニュー バーから、[Actions] > [Disconnect from vCenter] を選択します。 |
-

vCenter Server からの DVS の削除

vCenter Server から分散仮想スイッチ (DVS) を削除できます。

作業を開始する前に

- vCenter Server 接続を設定します。
- vCenter Server に接続します。
- Server Administrator により、接続されているすべてのホストが VI クライアントから削除されていることを確認します。詳細については、VMware のマニュアルを参照してください。

手順の詳細

-
- | | |
|---------------|---|
| ステップ 1 | [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。 |
|---------------|---|
-

■ ネイバー デバイスの表示

- ステップ 2 [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。
- ステップ 3 メニュー バーから、[Actions] > [Delete VMware DVS] を選択します。
- ステップ 4 メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。

モジュールからのホスト マッピングの削除

モジュールからホスト サーバへのマッピングを削除できます。



(注) この機能が実行できるのは、[Absent] 状態がディセーブルになっているモジュールだけです。

作業を開始する前に

vCenter Server 上の DVS からホストを削除します。

手順の詳細

- ステップ 1 [Feature Selector] ペインから、[Inventory] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理デバイスのサマリー シャーシ情報が表示されます。
- ステップ 2 所定の Cisco Nexus 1000V デバイスを拡張します。
デバイスに関連付けられたすべてのモジュールが表示されます。
- ステップ 3 ホスト マッピングを削除するモジュールを右クリックし、[Delete Host Mapping from Module] を選択します。

ネイバー デバイスの表示

選択された Cisco Nexus 1000V デバイスに隣接しているデバイスに関する情報を表示できます。

手順の詳細

- ステップ 1 [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
- ステップ 2 [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。
- ステップ 3 [Neighbors] セクションを拡張します。
ネイバー デバイスが表示されます。

制御インターフェイスの設定

レイヤ 3 制御に使用される制御インターフェイスを設定できます。

手順の詳細

-
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
 - ステップ 2** [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。
 - ステップ 3** [Control Interface] セクションを拡張します。
 - ステップ 4** [IP Address] フィールドに、レイヤ 3 制御に使用するインターフェイスの IP アドレスを入力します。
 - ステップ 5** [Wildcard Mask] フィールドに、ワイルドカードマスクを入力します。
 - ステップ 6** 管理ステータス ドロップダウンリストで、[Up] を選択してインターフェイスをイネーブルにします。
 - ステップ 7** メニューバーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
-

仮想スイッチのモニタリング

Cisco DCNM では、仮想スイッチ情報を監視できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[仮想スイッチ サマリー情報の表示](#)」(P.4-13)
- 「[仮想スイッチの詳細の表示](#)」(P.4-13)

仮想スイッチ サマリー情報の表示

管理ネットワークの仮想スイッチに関するサマリー情報を表示できます。

[Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。

仮想スイッチの詳細の表示

管理ネットワークの仮想スイッチに関する詳細を表示できます。この情報には、ドメイン設定および vCenter 接続設定に関する詳細が含まれます。

手順の詳細

-
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。

- ステップ 2** [Summary] ペインから、ドメイン、サーバ、ネイバー デバイス、および制御インターフェイスに関する詳細、ならびにイベントを表示するデバイスを選択します。

フィールドの説明

ここでは、仮想スイッチ機能の次のフィールドの説明を記述します

- 「[Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Domain Settings] セクション」 (P.4-14)
- 「[Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Connection Settings] セクション」 (P.4-14)
- 「[Inventory] : [Virtual] [Switch] : [Details] : [Neighbors] セクション」 (P.4-15)
- 「[Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Control Interface] セクション」 (P.4-15)

[Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Domain Settings] セクション

表 4-1 [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Domain Settings] セクション

フィールド	説明
[Domain ID]	ドメインの ID 番号。
[Sync Status]	コンフィギュレーションの vCenter Server との同期ステータス。
[Control Mode]	ドメインの制御モード。有効な選択肢は [Layer 2] または [Layer 3] です。
[Control Interface]	[Control Mode] が [Layer 3] の場合だけアクティブ。制御トラフィックおよびパケット トラフィック用に Virtual Supervisor Module (VSM) によって使用されるレイヤ 3 インターフェイス。
[Control VLAN]	制御トラフィックに使用される VLAN の ID 番号。
[Packet VLAN]	パケット トラフィックに使用される VLAN の ID 番号。

[Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Connection Settings] セクション

表 4-2 [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Connection Settings] セクション

フィールド	説明
[Connection Name]	接続の名前。
[Server Name/IP Address]	vCenter Server のホスト名または IP アドレス。
[Data Center Name]	分散仮想スイッチ (DVS) として が作成される vCenter Server のデータセンター名。データセンター名は、にローカルに格納されます。
[Config Status]	コンフィギュレーションのステータス。有効な選択肢は [Enabled] または [Disabled] です。

表 4-2 [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Connection Settings] セクション (続き)

フィールド	説明
[Certificate Filename]	接続に使用されるデジタル証明書のファイル名。
[Version]	VMware vCenter サーバのバージョン。
[Protocol]	vCenter Server でセッションを確立するために使用されるプロトコル。有効な選択肢は [VMWARE VIM] または [EMPTY] です。
[Port Number]	vCenter サーバとの接続に使用される TCP ポート。
[DVS UUID]	分散仮想スイッチ (DVS) の Universally Unique Identifier (UUID)。
[Oper Status]	接続のステータス。
[Sync Status]	コンフィギュレーションの vCenter Server との同期ステータス。

[Inventory] : [Virtual] [Switch] : [Details] : [Neighbors] セクション

表 4-3 [Inventory] : [Virtual] [Switch] : [Details] : [Neighbors] セクション

フィールド	説明
[Last Updated Time]	スイッチから情報が最後に取得された時間。[Get Latest Info] をクリックすると、スイッチから最新情報が取得されます。
[Source MAC Address]	表示専用フィールド。受信されたフレームの MAC 送信元アドレス。
[Type]	表示専用フィールド。ネイバー ノードが VSM または VEM であることを示す設定
[Domain ID]	表示専用フィールド。ドメインの識別番号。
[Node ID]	表示専用フィールド。ネイバー ノードの識別番号。
[Last Learnt Time]	表示専用フィールド。MAC アドレスが最後に学習された時間。

[Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Control Interface] セクション

表 4-4 [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Control Interface] セクション

フィールド	説明
[IP Address]	制御インターフェイスの IP アドレス。
[Wildcard Mask]	制御インターフェイスのワイルドカードマスク。
[Admin Status]	制御インターフェイスの管理ステータス。有効な選択肢は [Up] または [Down] です。
[Operation Status]	現在の動作ステータスで、[Up] または [Down] です。

その他の関連資料

仮想スイッチの実装に関連する情報については、次を参照してください。

- 「関連資料」(P.4-16)
- 「標準規格」(P.4-16)

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
ドメインの設定	『Cisco Nexus 1000V System Management Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(2)』
サーバ接続の管理	『Cisco Nexus 1000V System Management Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(2)』

標準規格

標準規格	タイトル
この機能でサポートされる新規または改訂された標準規格はありません。また、この機能による既存の標準規格サポートの変更はありません。	—

仮想スイッチ機能の履歴

ここでは、仮想スイッチのリリース履歴を示します。

機能名	リリース	機能情報
仮想スイッチ	5.0(2)	この機能が導入されました。